

2015年4月16日
平成25年度無償資金協力「貧困農民支援」
(平成25年度対ブータン無償資金協力) 耕耘機引渡式

事後発出用プレスリリース

平成27年4月16日

平成27年4月16日、ブータン西部パロにおいて、ブータン農業森林省主催による「貧困農民支援」(平成25年度対ブータン無償資金協力)により供与される239台の耕耘機の引渡式典が開催されました。

本件式典には、ツェリン・トブゲー首相、ブータン政府関係者が出席し、在インド日本大使館から菊田豊臨時代理大使が出席しました。

本案件は、総額1億1,000万円のプロジェクトで、労働者不足が深刻なブータン農村部の生産性向上のため、ブータン農業森林省に239台の耕耘機を供与しました。

貧困農民支援は、食糧不足に悩む開発途上国に対し、食用作物(米、麦、トウモロコシなど)の増産に役立つ肥料や、農業機械といった農業資機材の支援を目的として1977年に開始された無償資金協力です。我が国は、この枠組みにより、ブータンに対し1984年からこれまでの間に約2900台の農業機械を供与してきました。

日本の農業機械は耕耘作業のみならず、播種や脱穀、ポンプをつないで灌漑にも利用できるなど、農業の様々な作業を機械化し、一人あたりの生産性を飛躍的に高めることのできる機械として、ブータンにおいて高く評価されています。

ブータン農業森林省では、貧困削減・食料安全保障のため農業開発に取り組んでおり、特に農業機械化を重視しています。しかしながら、ブータンにおける2008年時点での農業の機械化率は約8%と未だ低く、農村部の労働力不足の解消及び農業生産性の向上が急務となっていることから、今回新たに耕耘機239台を供与しました。

今回の無償資金協力を通じた農業機械の供与により、ブータンの農業生産性が向上し、食料安全保障が強化されるとともに、日本とブータンの友好・協力関係が更に発展することが期待されます。



握手するカルマ農業森林次官補と
菊田在インド日本大使館次席公使、
それを見守るトブゲー首相



引き渡された耕耘機